神秘学ポエジー 風遊戯 photopos 137

【神秘学ポエジー〜風遊戯 第 274集】 photo ヴァージョン

photopos 3401-3425

《2023.12.31〜 2024.1.24》

神秘学遊戯団

☆photopos-3401　2023.12.31

私にとって
なにが
いちばん
大切なのか

むずかしい問いだが
想像力がそこで試される

想像力の照らせる世界が
私の世界の限界である

そこに
門番が衛っている

門番は問う
汝の求めるものはなにか

そうして
みずからを鏡に映すよう促す

そこに映されたものを
越えて進むことはできない
そこに門は現れるのだ

いかに生きるべきか
いちばん大切なものは
その問いを映している

＊愛媛県松山市・重信川にて

☆photopos-3402　2024.1.1

世界がある
世界は魔術
私は世界とともにいる

空が広がる
空は魔術
私は空とともにいる

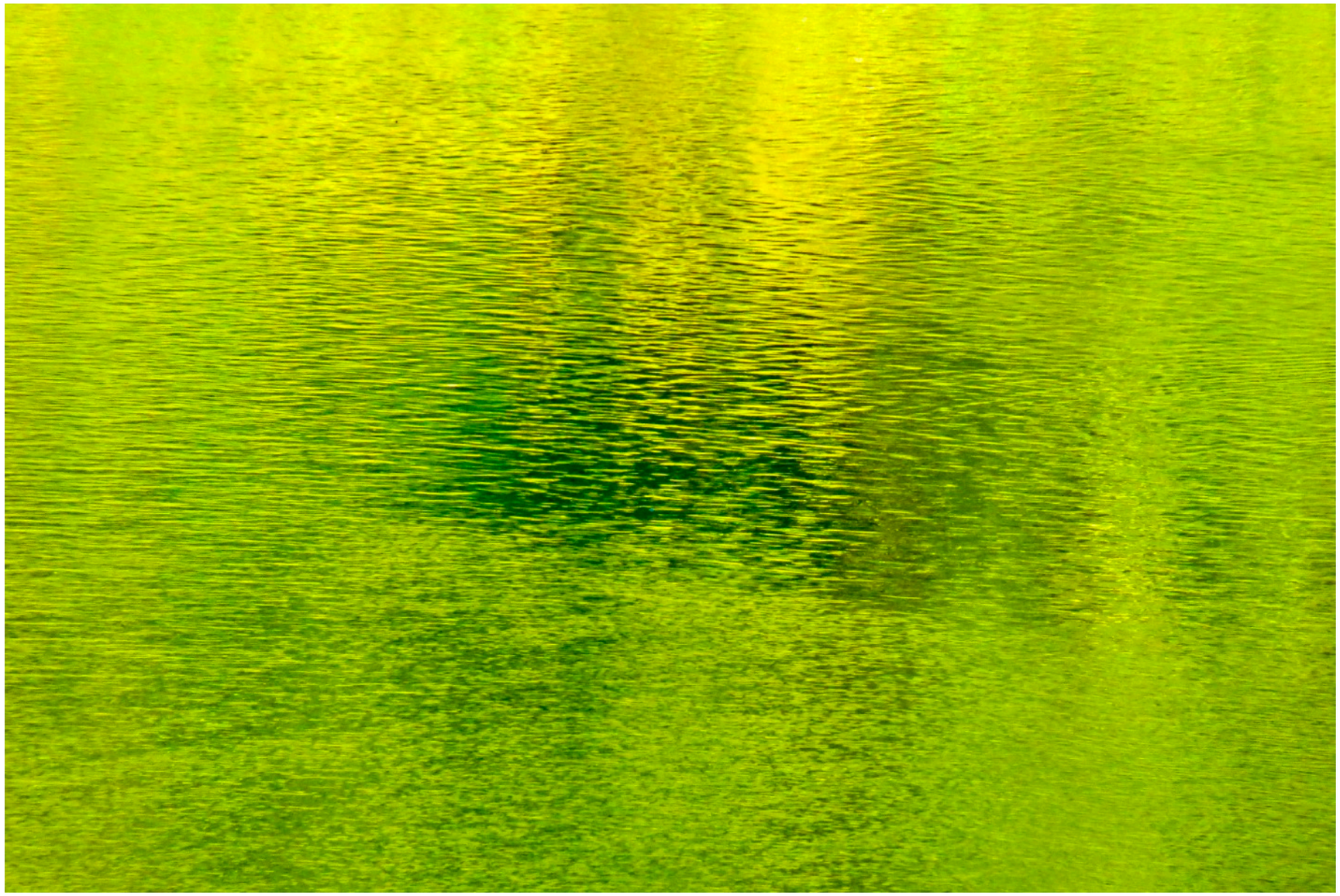
風が吹く
風は魔術
私は風とともにいる

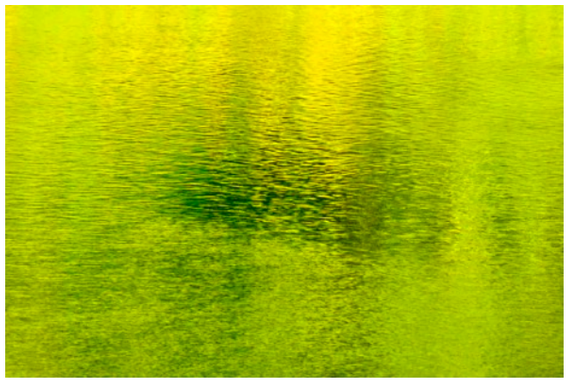
水が流れる
水は魔術
私は水とともにいる

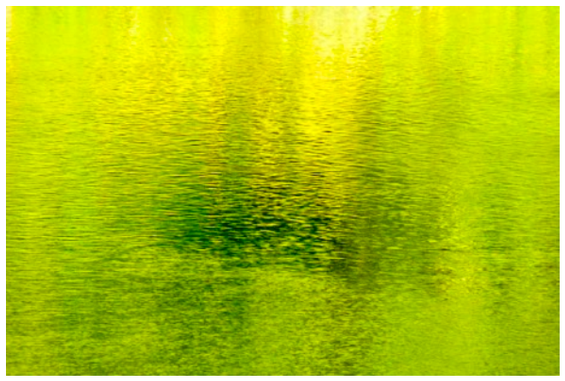
光があふれる
光は魔術
私は光とともにいる

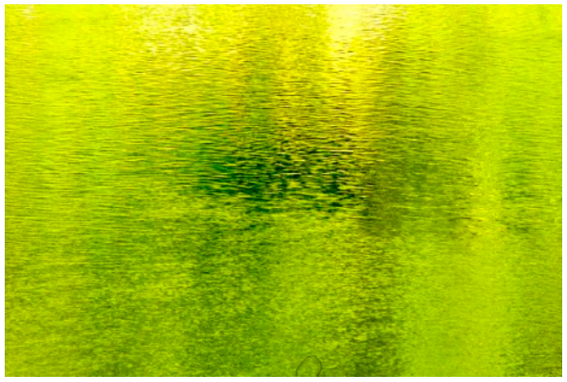
時が流れる
時は魔術
私は時とともにいる

あなたがいる
あなたは魔術
私はあなたとともにいる









＊高知県四万十市・四万十川 岩間沈下橋にて

☆photopos-3403　2024.1.2

言葉はペルソナである

どんなにたくさんの
ペルソナを集めることができても
ペルソナの奥にある力を
経験できないならば
言葉はただの言葉でしかない

言葉の奥にある
ほんとうの力を経験できますように

ひとはペルソナである

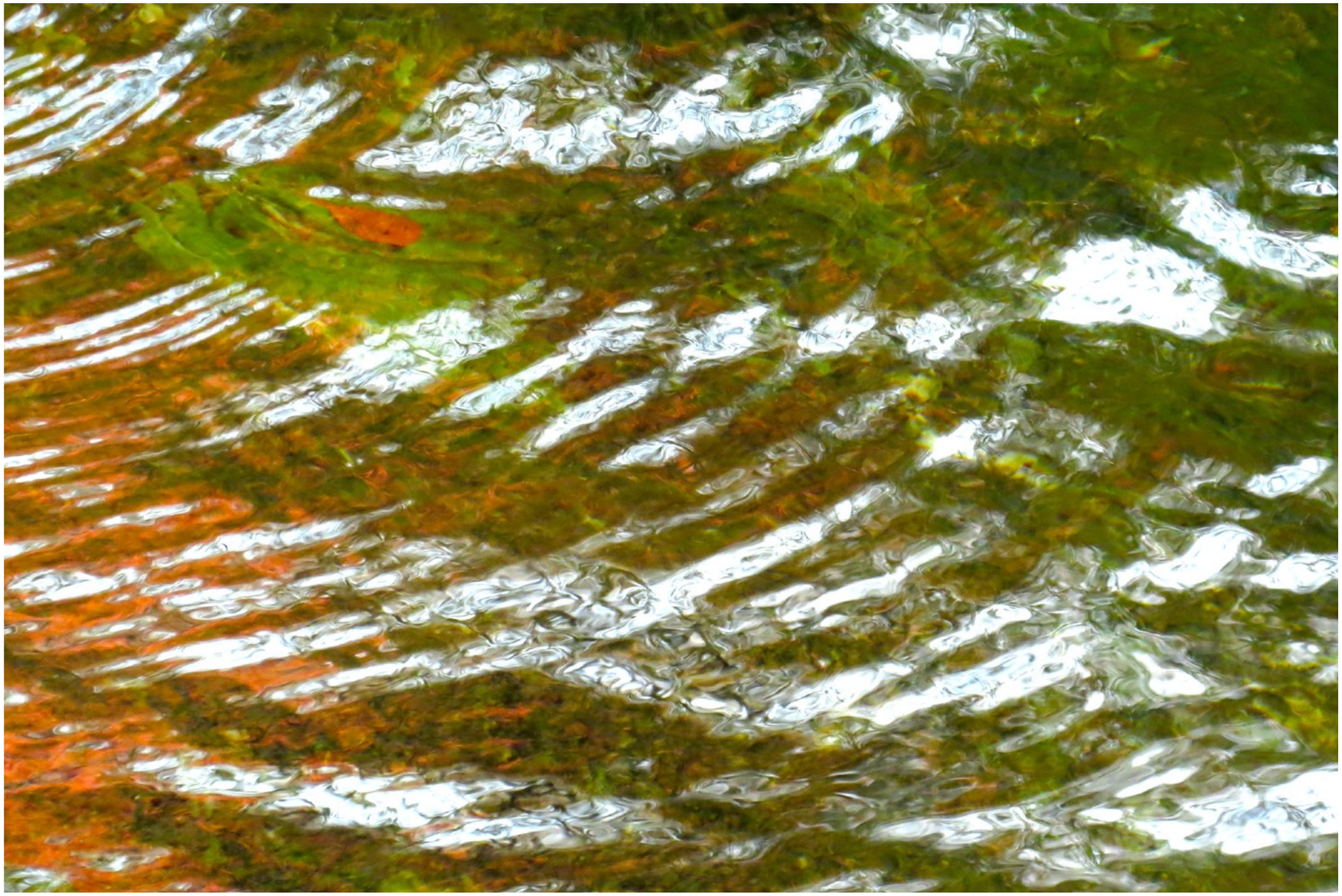
どんなにたくさんの
ひとと出会えても
ひとの奥にある顔に
出会えなければ
ひとはだたの通行人でしかない

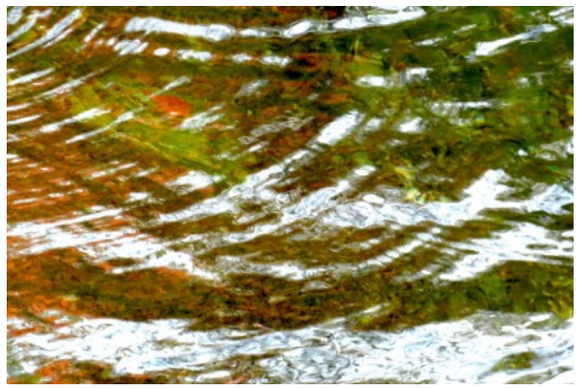
ひとの奥にある
ほんとうの顔に出会えますように

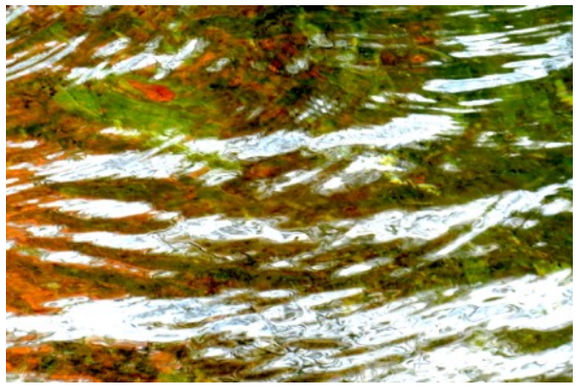
世界はペルソナである

どんなにたくさんの
ところに出かけても
世界の奥にある顔を
見ることができなければ
世界はただの映像でしかない

世界の奥にある
ほんとうの顔を見られますように







＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3404　2024.1.3

闇のなかで
生き続けてきた

我が愚かさよ
我が狂気よ
我が醜さよ

それら闇の姿は
見ることを
潔くせぬままではいられない

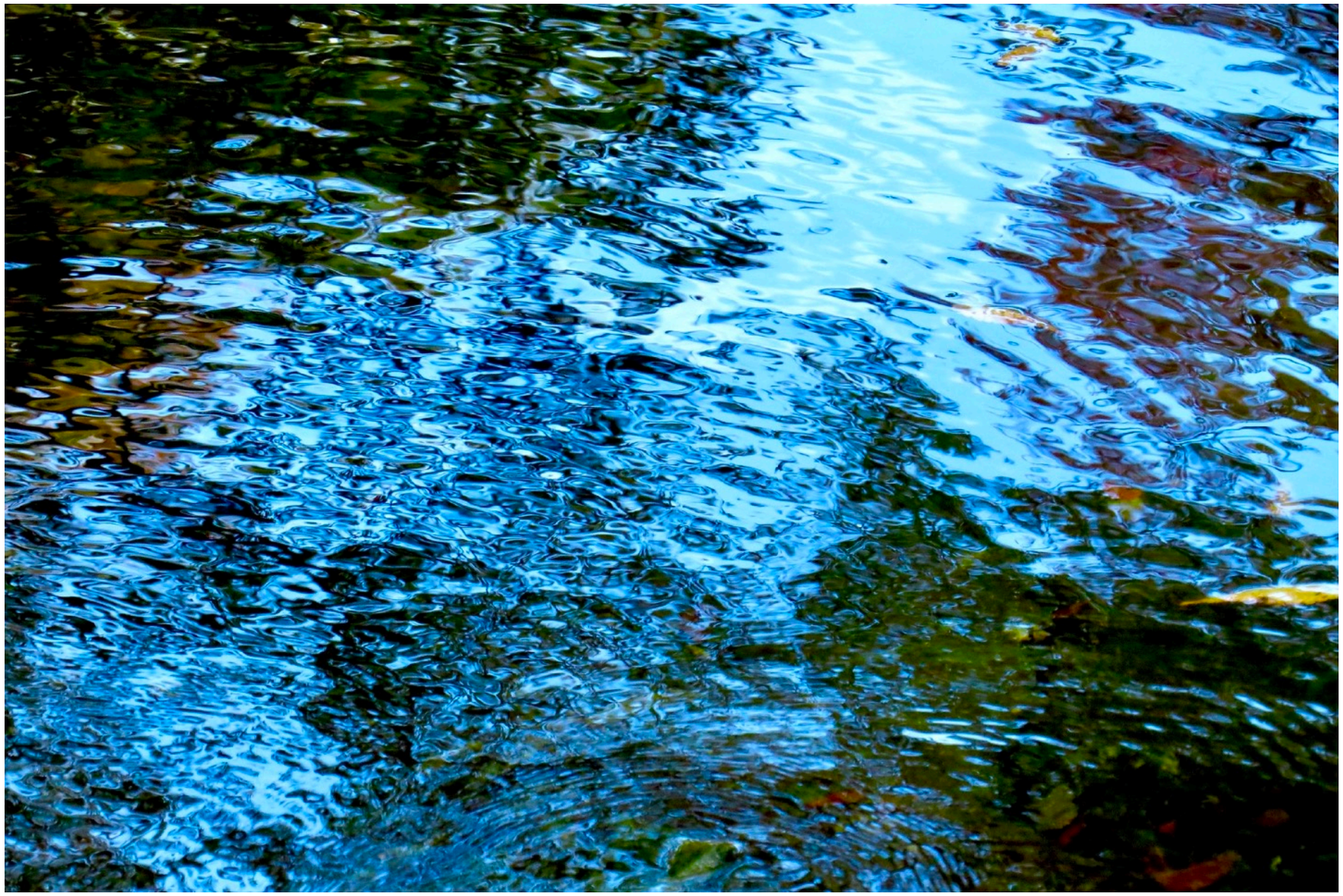
新たな時代へ
扉を開くために

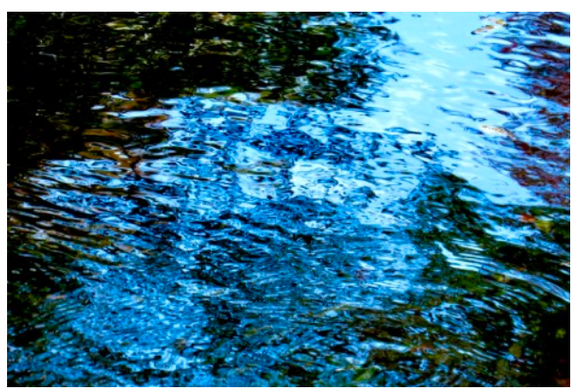
愚かさを見据え
それを隠すことなき叡智へ

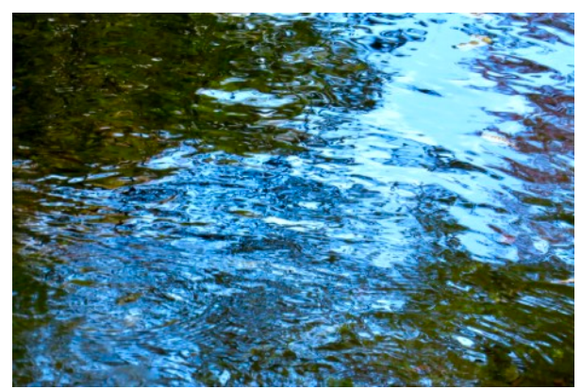
正気を装うことなく
狂気にしかなしえぬ超越へ

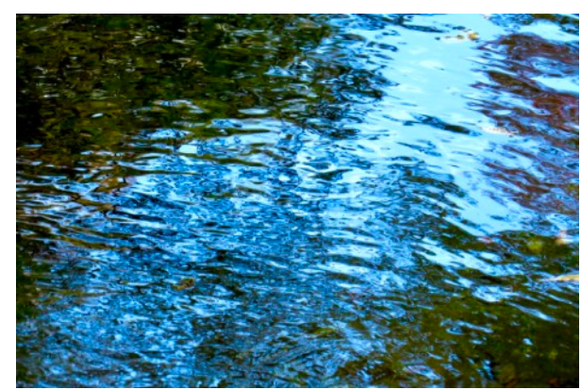
醜さを厭わず
美への執を去る変容へ

我が闇が
光へと導かれますように









＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3405　2024.1.4

天空の星は
内なる星を
照らすために

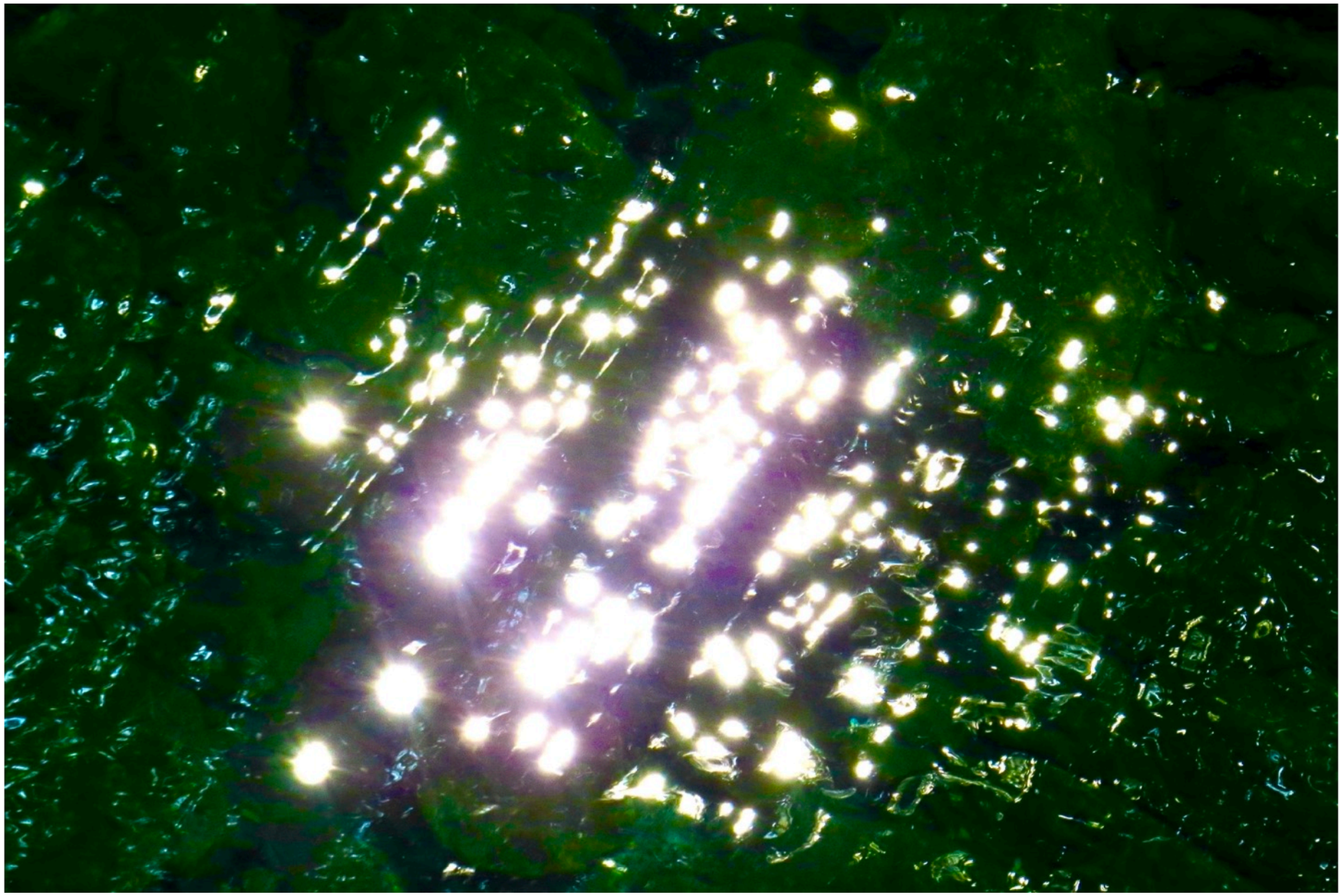
そして
我が内なる光を
外なる光へと
むすぶために

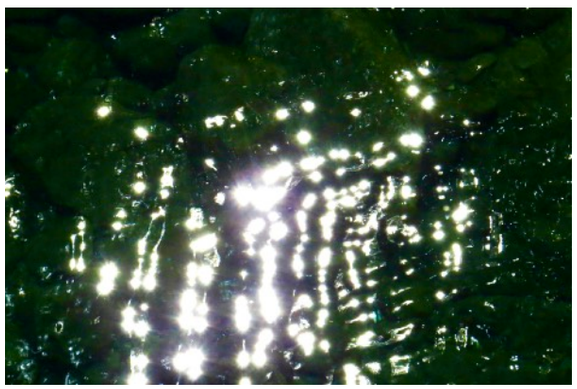
星をむすび
光をむすび
ともに祈る

外なる悪は
内なる悪に気づき
見据えるために

そして
我が内なる善を
外なる善へと
つなぐために

悪を鎮魂し
善を巡らせ
宇宙を紡ぐ





＊愛媛県久万高原町・面河渓にて

☆photopos-3406　2024.1.5

ひとを勇気づけるのも物語なら
ひとを悲しませるのも物語

ひとを光へと導くのも物語なら
ひとを闇へと導くのも物語

わたしはこうして救われた
それも物語なら
わたしはこうして迷いつづけた
それも物語

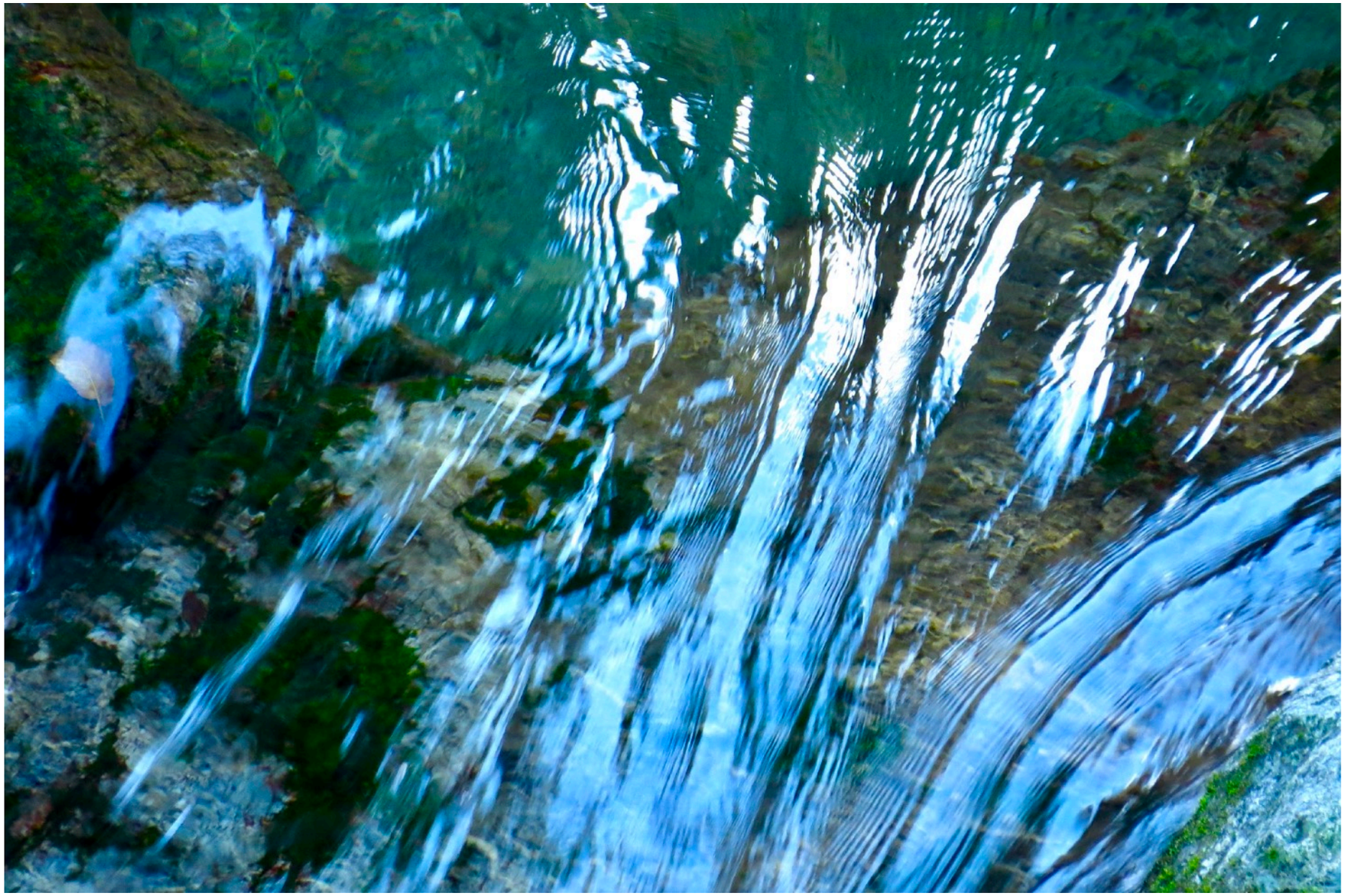
わたしはこうして変わった
それも物語なら
わたしはこうしてどこにもゆけなく
なった
それも物語

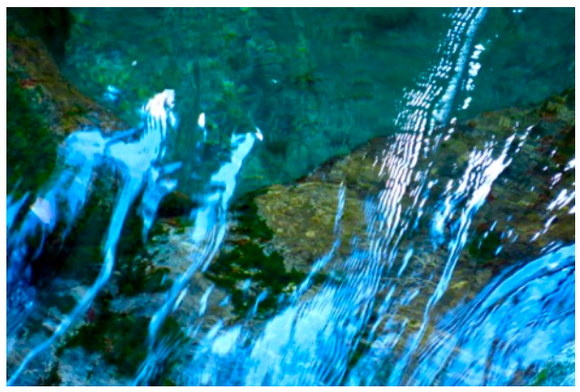
ほんの小さな偶然でさえ
大きな物語へとつながり
ひとを大きく変えてしまうこともある

物語はわたしを作りもし
物語はわたしを壊しもするが

生きることは
じぶんの物語を織りなしていくこと

与えられた物語を生きるよりも
おのずから生まれくる物語を
自由に生きられますように





＊愛媛県久万高原町・八釜の甌穴群にて

☆photopos-3407　2024.1.6

まったくおなじ経験は
どこにもないのに

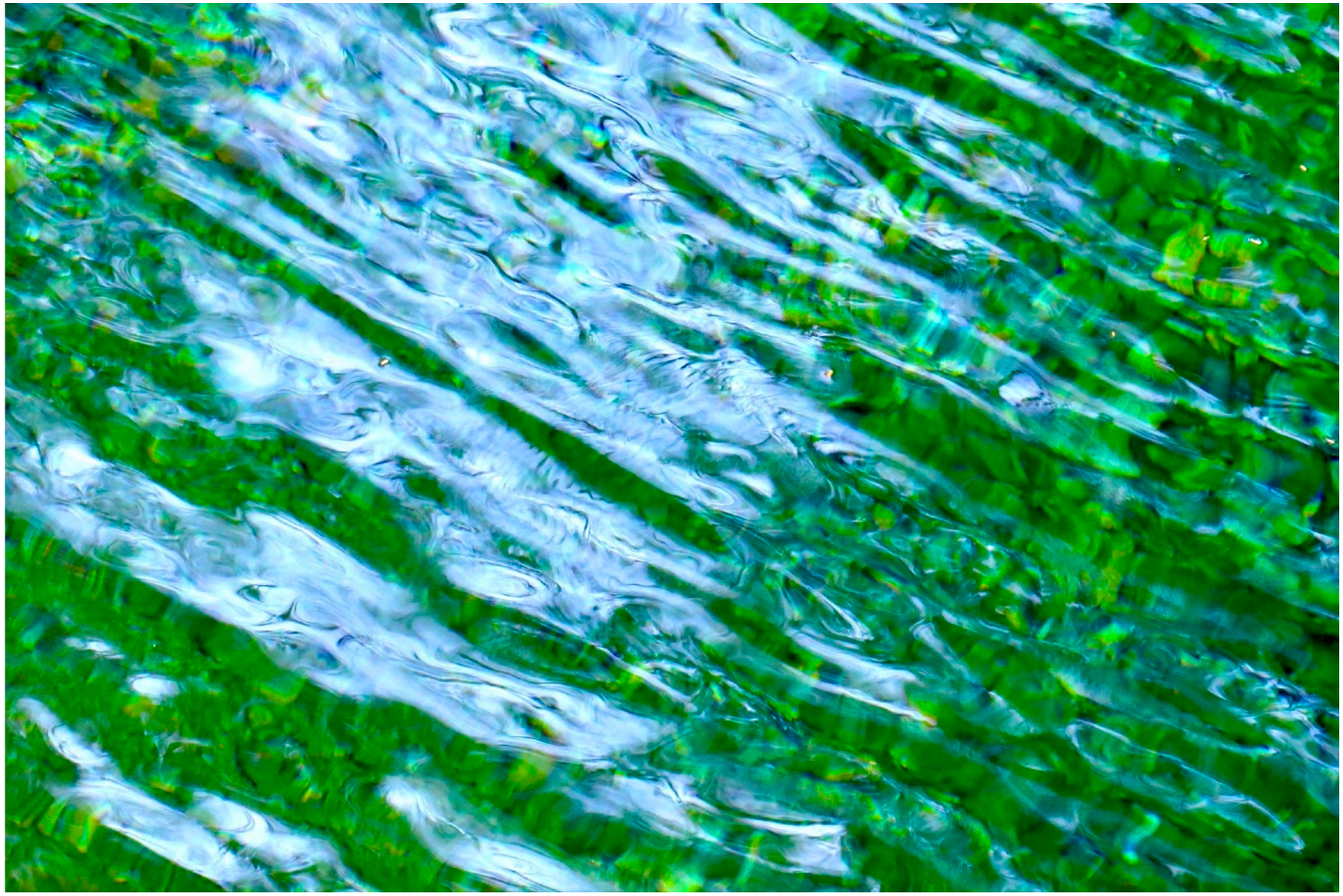
繰り返しになると
はじめてを失くし
すべてを
差異のない
繰り返しにしてはいないか

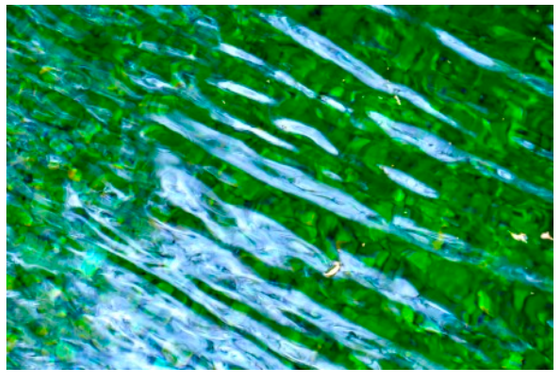
そのとき
経験は
消費されるばかりになり
みずからそれを
生み出そうとはしなくなる

いつもはじめてのとき
繰り返しは
おなじを意味しない

そのとき
経験は
消費されることを止め
みずから生み出す
新しいプロセスになる

わたしがいつも
はじめてでいるとき
世界はいつも
はじめての経験に満ちている





＊愛媛県久万高原町・面河渓にて

☆photopos-3408　2024.1.7

言葉は
手に支えられ
世界を表し
ともに世界をつくるから

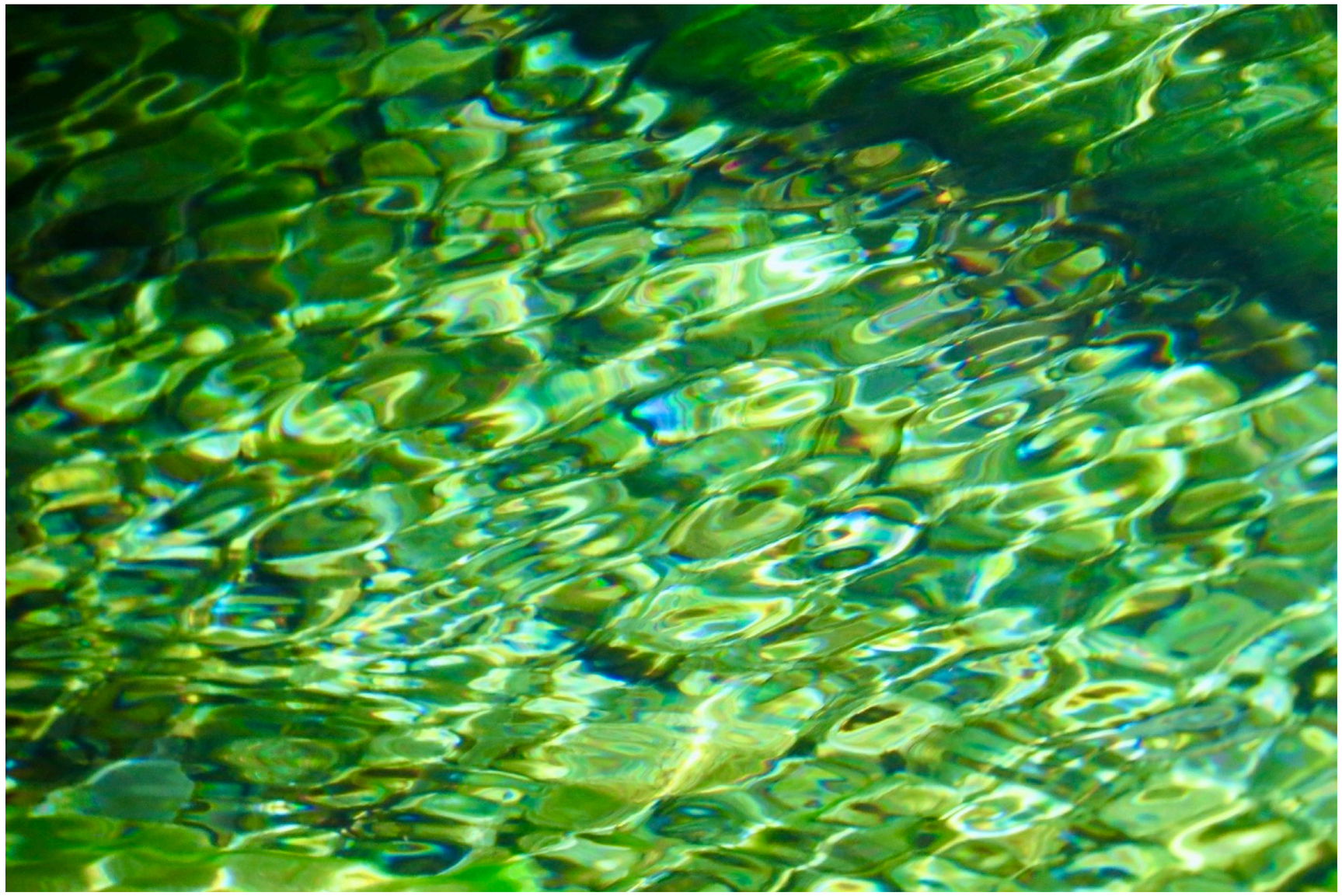
手のない
言葉は
歌うことを忘れた
鳥のように虚ろだ

思考は
手によって描かれ
形づくられてゆくから

手のない
思考は
絵筆のことを忘れた
画家のように無力だ

扉は
手によって開かれ
あらたな世界へと
通じているから

手を使うことなく
開かれない扉は
稔ることを忘れた
果実のように悲しい



＊愛媛県久万高原町・面河渓にて

☆photopos-3409　2024.1.8

作ることは
作られること

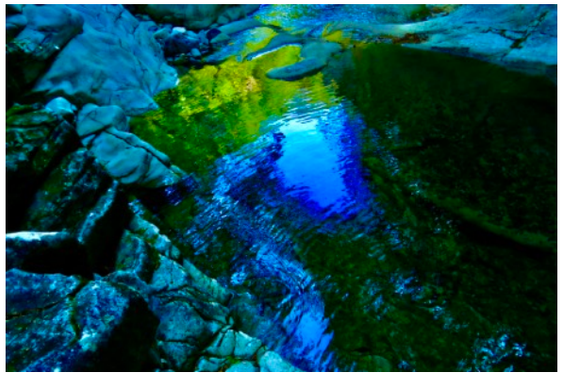
作り
作られ
作り
作られ

それが
ひとつの
形となって
姿をあらわしている

作ることは
じぶんを作り
作られることは
じぶんが作られること

作ることを
やめたとき
作られることも
なくなり

ひとは
じぶんを
見失う



＊愛媛県久万高原町・面河渓にて

☆photopos-3410　2024.1.9

手で使う
道具もあれば
心で使う
道具もある

使えないでいることを
道具を原因として
次々と道具を
変えていくこともあるだろうが

道具を
使いこなすには
それを
じぶんの一部として
ともにじっくりと育てていく
長い長い時間が必要になる

道具は
目的があって
使われるが

ときに刃物が
ひとを傷つける
道具にさえなるように

ときに言葉が
ひとを傷つける
道具にもなるように

目的を外れて
あるいは意図的に逸脱しながら
使われることもある

道具とともに
迷いながらも確かに
育っていけますように

＊愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

☆photopos-3411　2024.1.10

ひとりでいると
ちっぽけだと感じ
みんなでいると
大きく感じるとすれば
それは自我の病だ

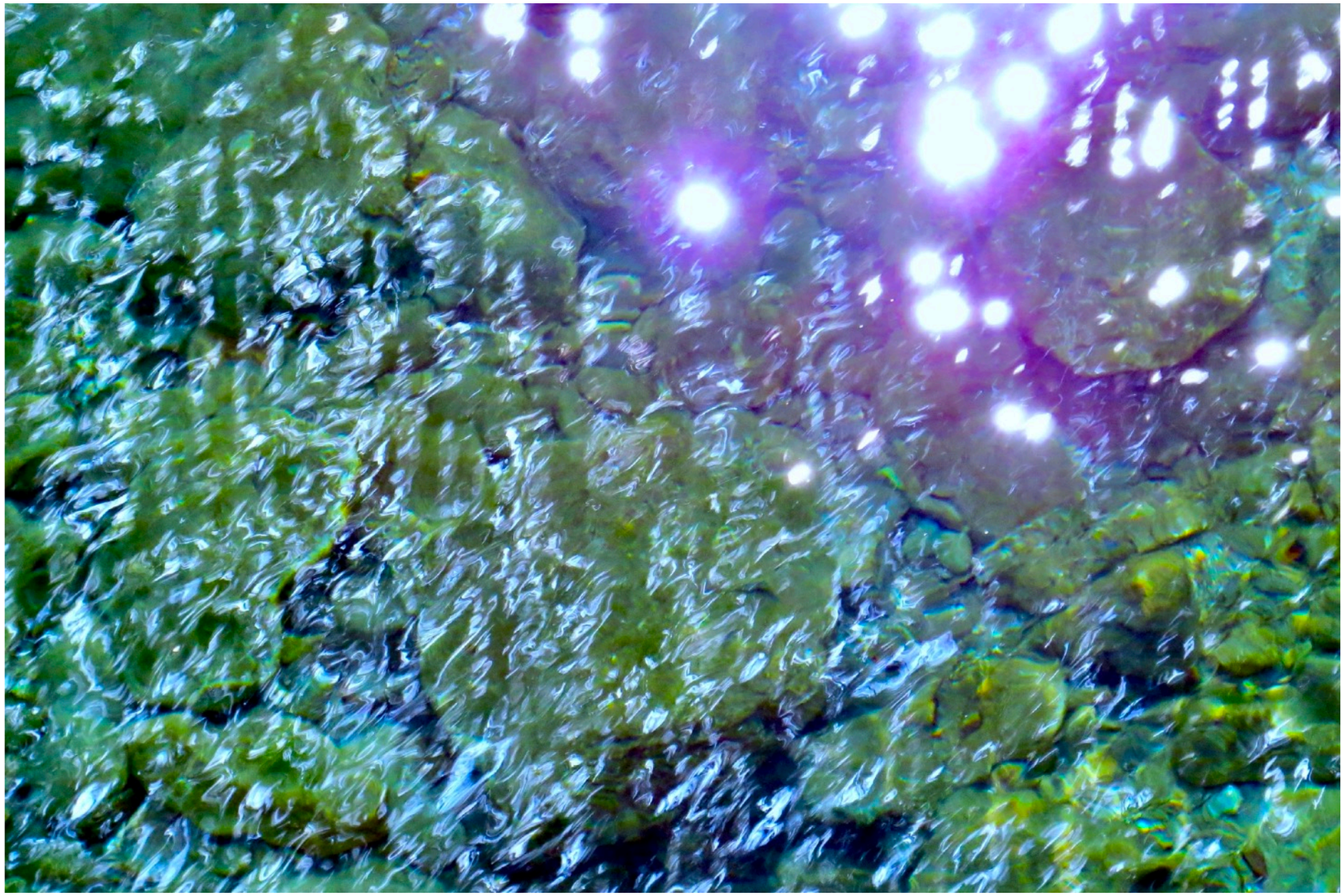
自我という器はむずかしい

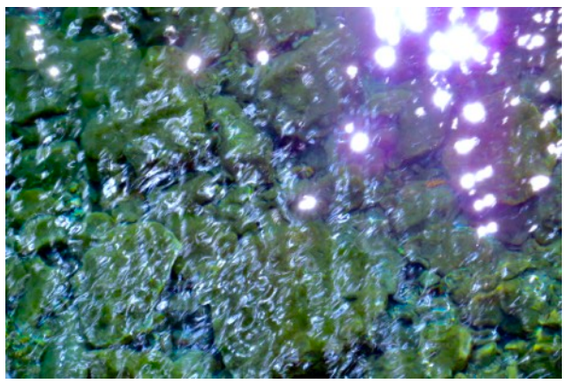
小さくなればなるほど
大きなものを求め
小さな自我に
過剰な欲望を注ぎ
じぶんが大きくなったと錯誤する

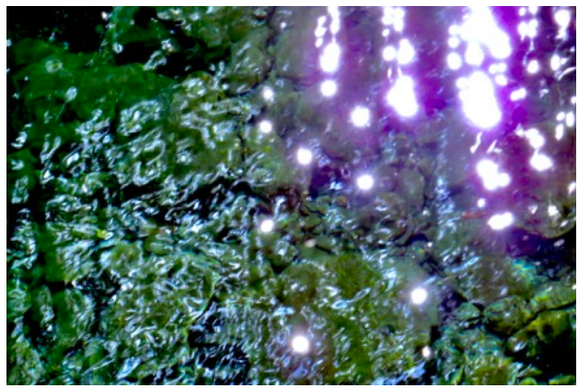
大きくなればなるほど
じぶんの器を超えないだけの
たしかな知恵を注ぐよう
注意深くなければならない

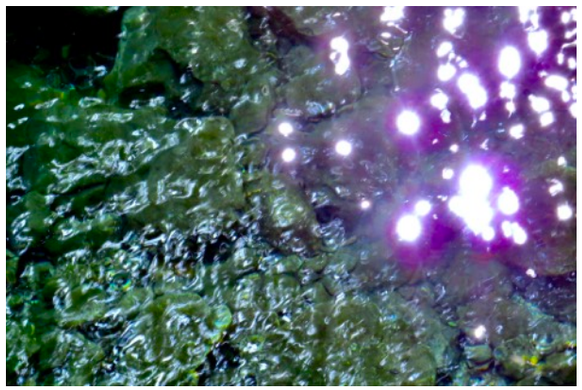
じぶんの器を見誤ると
器からあふれだしたマーヤが
世界を欲望で満たそうとする

知恵ある器になれますように









＊愛媛県久万高原町・面河渓にて

☆photopos-3412　2024.1.11

人という字は
支え合いでできているが

支え合うことで
生まれるのは
光だけではない

そこでは
支え合うがゆえの
闇もまた生まれてくる

支える人と
支えられる人がいる

それは相互的な姿であるにもかかわらず
上下や支配・被支配と
取り違えられてしまいがちだ

上からくる力は
下へも及び
そこで生まれた関係から
逃れられなくなり

思いやりさえ
思いの槍となって
ひとをじぶんの思いに
従わせようとしたりする

そこでつくられてしまった関係は
変えることがむずかしい

人と人は
いつもむずかしいのだ

せめてじぶんのなかの人だけは
ほんとうに支え合える
自由な関係をと思うのだが
そこでさえも光と闇は交錯する

＊愛媛県久万高原町・面河渓にて

☆photopos-3413　2024.1.12

美と醜
善と悪
真と偽
友と敵
健と病

一方が極まれば
他方になるように
一方を求めれば
他方を求めてしまうように
反対のものは同調する

その争いから
自由になるには
対立軸から離れ

それらのぞれぞれが
どんなところで働き
それがじぶんのなかで
どんな姿を見せているかに
注意深くあること

対立のないところでは
争いは起こらない

ほんとうに
そう望みさえすれば

＊愛媛県久万高原町・面河渓にて

☆photopos-3414　2024.1.13

愛を失くし
嘆く者よ

愛を求めるまえに
愛を阻むヴェールを
見つけだすことだ

その向こうに
変わらず
ほんとうの愛はあるから

世界に幻滅し
嘆く者よ

世界を変えようとするまえに
世界にヴェールをかける
じぶんを変えることだ

その向こうに
変わらず
ほんとうの世界はあるから

大切なものを失くし
嘆く者よ

失くしたものを取りもどすまえに
失くすことのない
じぶんを取りもどすことだ

その向こうに
変わらず
ほんとうのじぶんはいるから

＊愛媛県久万高原町・面河渓にて

☆photopos-3415　2024.1.14

世界は問うことで
姿をあらわす

ひとつ問い
その答えのピースを
現実１とし

またひとつ問い
その答えのピースを
現実２とし

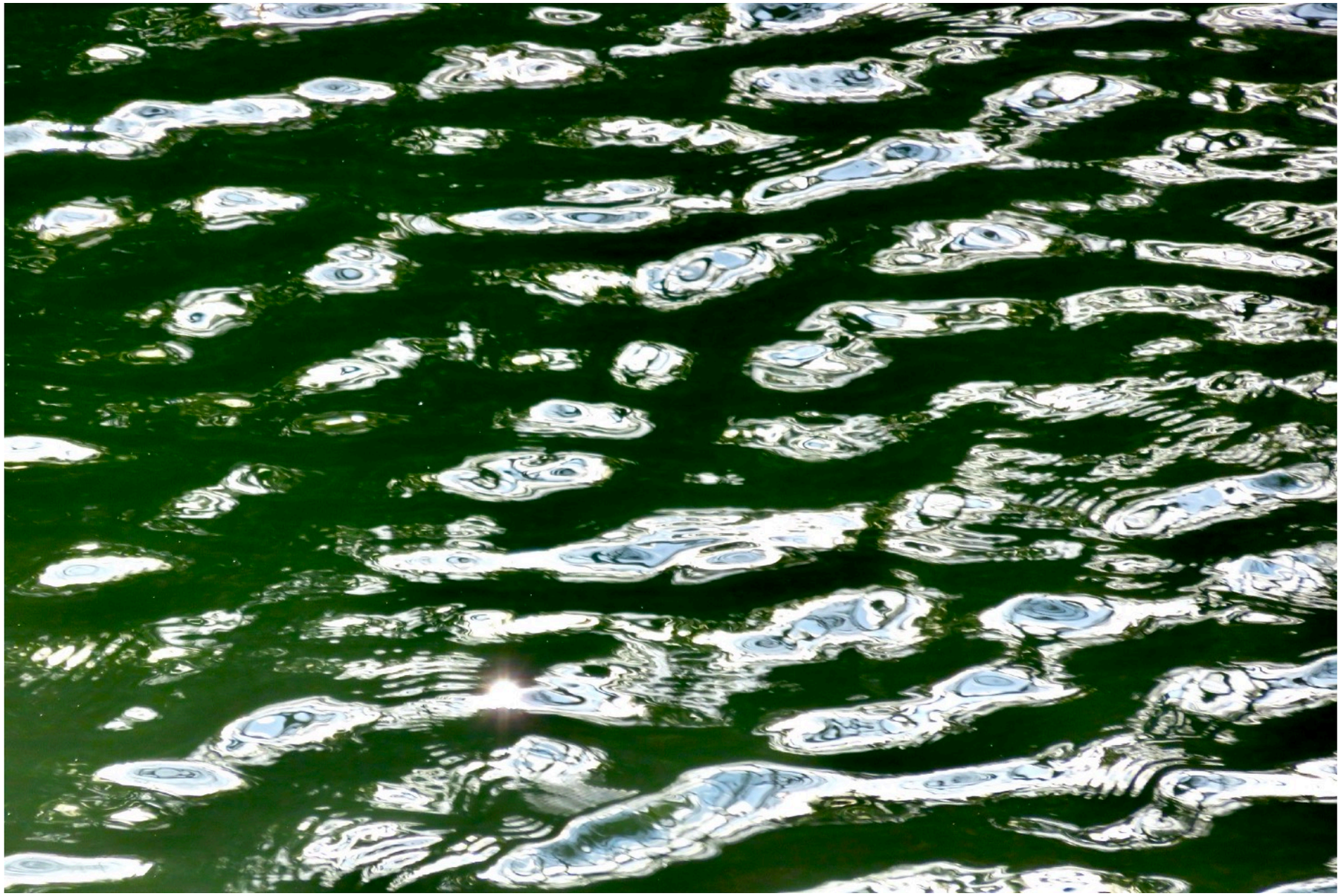
そうして次々と
現実Ｘを作っていくのだが

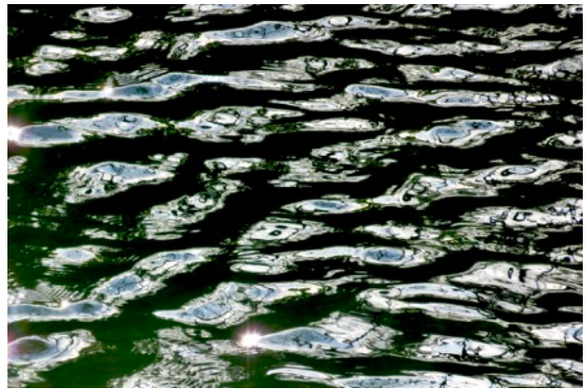
現実は
どこかでズレはじめ
いつのまにか
全体が見えなくなり
迷宮のようになっていく

それでも
わたしたちは
わからないままに
目のまえの現実を
ひとつひとつ
問いつづけていくしかない

それが生きる誠実さであり
そのなかでわからなくなる
そのわからなさこそが
現実だからだ

わからなさを問い
わからなさを生きる
そうすることではじめて
わたしたちは
わからなさこそが
世界だということに気づく





＊愛媛県久万高原町・笛ヶ滝公園にて

☆photopos-3416　2024.1.15

先の見えないことを
恐れるなかれ

不安こそが
自由への道をひらく

自由ゆえの
無常である

変わらないものはない
というだけに
留まりはしない

すべては
自由において
生み出されなければならない

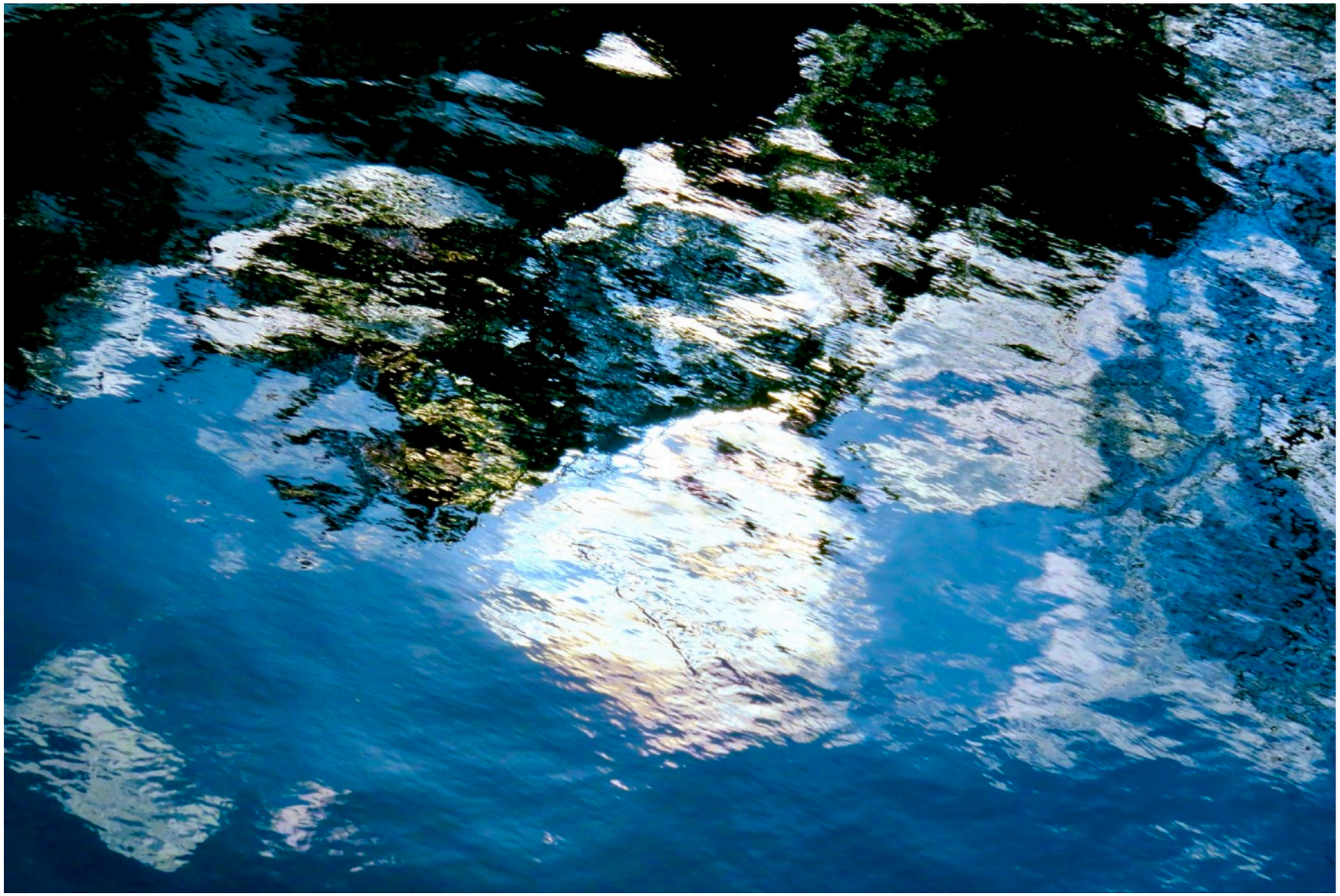
無からの創造
という神の業とは
自由の行為である

刹那滅とは
刹那に滅し
刹那に生じる
存在の秘密にほかならない

無常は
その自由ゆえに
愛の種となる

愛は恐れない
愛は縛らない

ポエジーを詠い
いつも新しい



＊愛媛県久万高原町・笛ヶ滝公園にて

☆photopos-3417　2024.1.16

なぜひとは
歌うのだろう

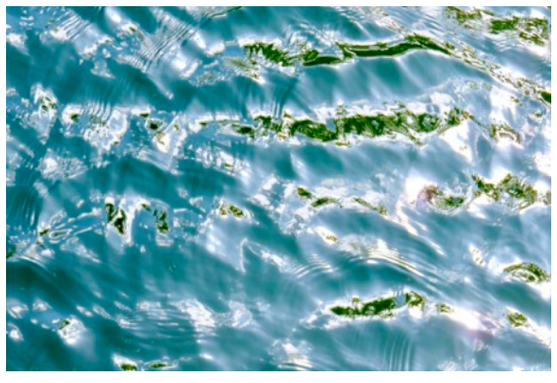
その声
その言葉
それが記された文字

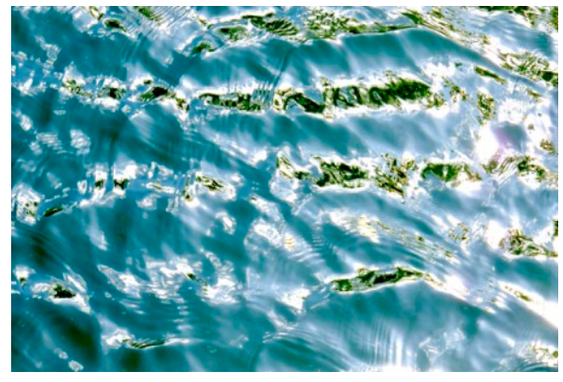
世界という謎を写したいのか
心という謎を伝えたいのか
ひとは歌うことをやめない

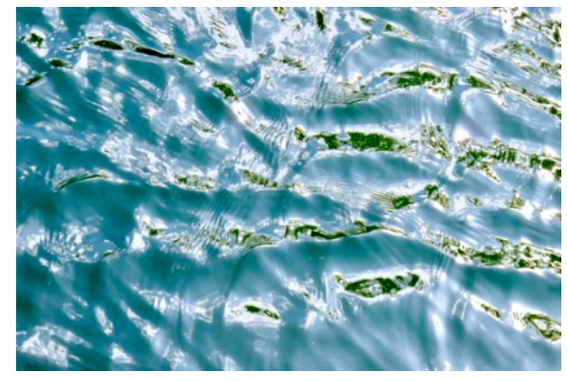
世界を知ろうと
ひとは論理で世界を測り
たしかに表現しようと
言葉に文法を与えるけれど

世界は
論理からすり抜け
言葉は
文法からすり抜けてゆくから

ひとは歌うことで
世界のほんとうと響きあい
心のほんとうを描こうとする







＊愛媛県久万高原町・笛ヶ滝公園にて

☆photopos-3418　2024.1.17

ひとは
測られる数値ではないのに
いまやひとは
ＰＣのなかで表示される
データとなっている

医師はひとを診ないで
データを診ることで
病名を当て嵌める

データを表示するのは機械だ
機械をつくるのは人間だ
人間を操って
機械をつくらせるのはだれだろう
表示されるデータの評価を
決めるのはだれだろう

計測するために
ひとは機械に掛けられ
機械からさまざまな影響を受ける

そしてその影響は計測されず
その病名もつけられることはない
薬害が闇に隠れようとするように

わたしはデータではないのに
その影に怯えて生きる

その影の正体を見極めたとき
ひとはそれが
みずから投影したものだと知り
測ることのできないからだと
ともにあることを求めるようになる

＊愛媛県久万高原町・笛ヶ滝公園にて

☆photopos-3419　2024.1.18

光は
闇を消すのではない
闇は
光となるのだから

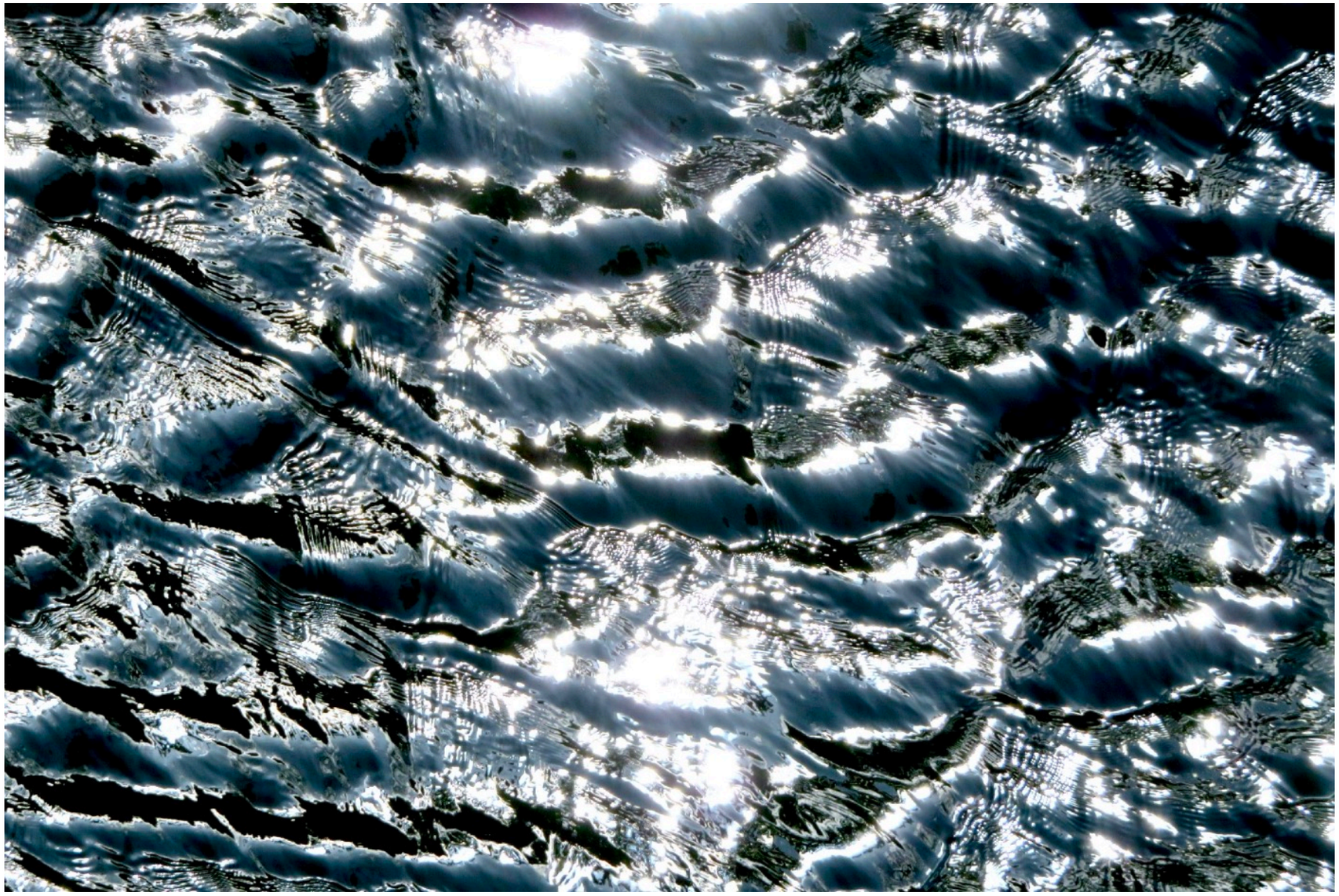
そしてその闇は
純粋な光よりも
光を超えてゆく

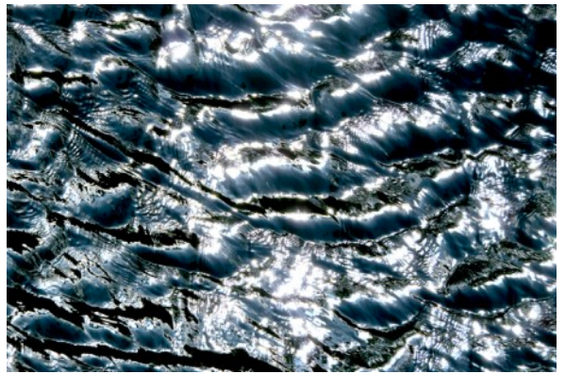
知は
無知を遠ざけるのではない
無知は
知となるのだから

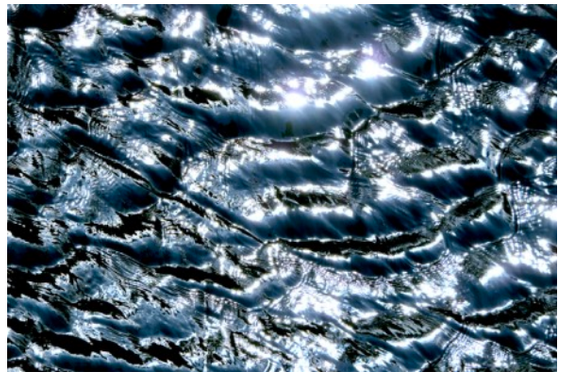
そしてその無知は
純粋な知よりも
知を超えてゆく

愛は
憎しみを拒むのではない
憎しみは
愛となるのだから

そしてその憎しみは
純粋な愛よりも
愛を超えてゆく







＊愛媛県久万高原町・笛ヶ滝公園にて

☆photopos-3420　2024.1.19

戦いは
正と反の線上にある

戦いから
自由になるためには
その線上を離れることだ

争いは
ひとりでは起こらない

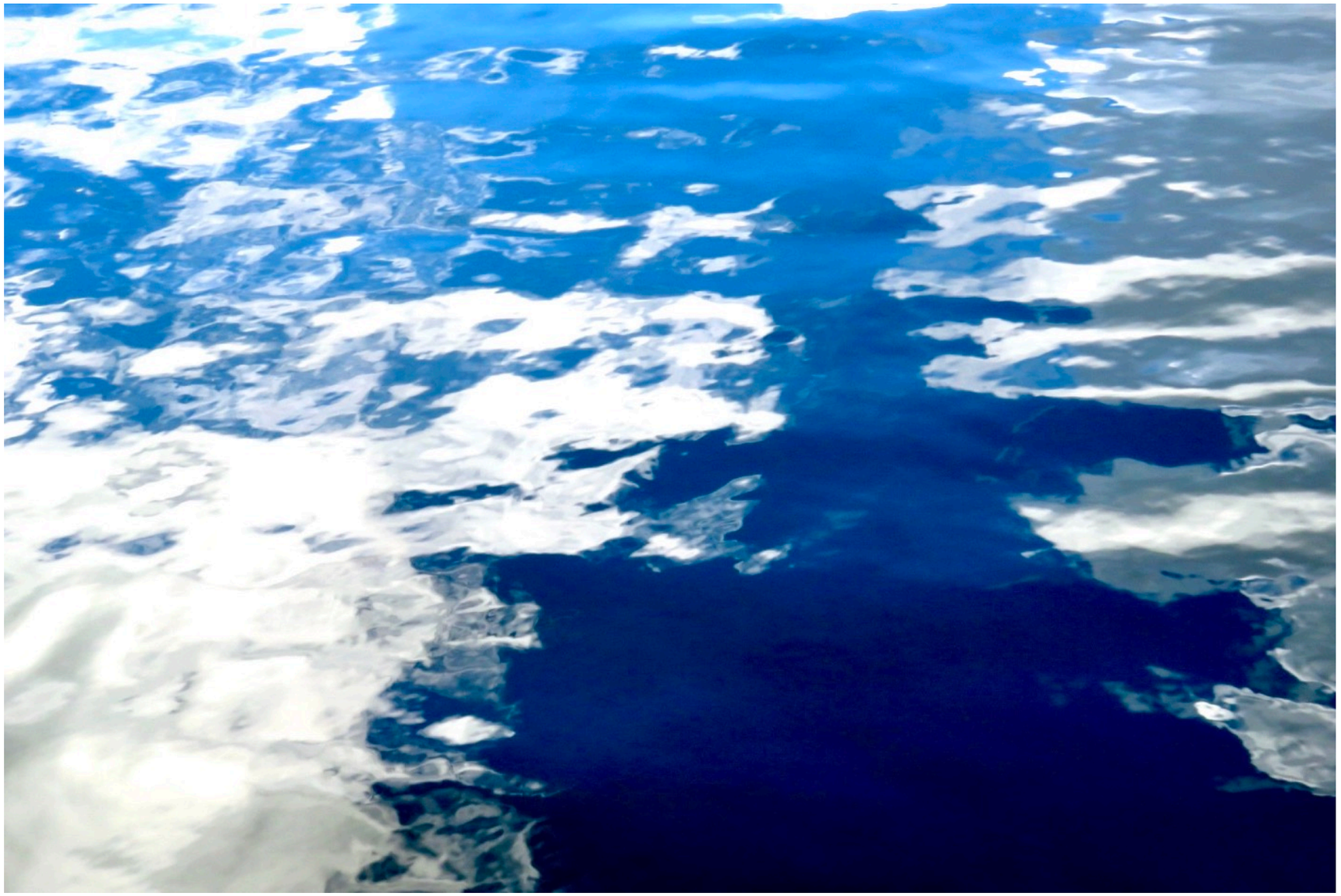
戦いから
自由になるためには
ひとりを楽しむことだ

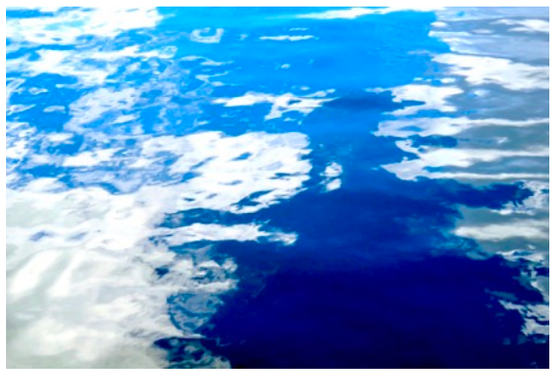
戦いは
競い争うことで生まれる

戦いから
自由になるためには
ひとの価値軸に依らないことだ

戦いは
騒々しく喧しい

戦いから
自由になるためには
静かに考えることだ





＊愛媛県久万高原町・笛ヶ滝公園にて

☆photopos-3421　2024.1.20

種を蒔く人が
種蒔きに出て行く

ある種は
道端に落ち
鳥が来て食べてしまう

またある種は
石だらけで土が少ない所だったので
すぐに芽は出たが枯れてしまう

またある種は
荊（いばら）のあいだに落ちたので
荊がのびて塞がれてしまう

またある種は
良き土地に撒かれたので
実がむすばれどんどん増えていく

ところで
種を蒔く人が
良き人であるとはかぎらない
蒔かれる種が
良き種ばかりともかぎらない

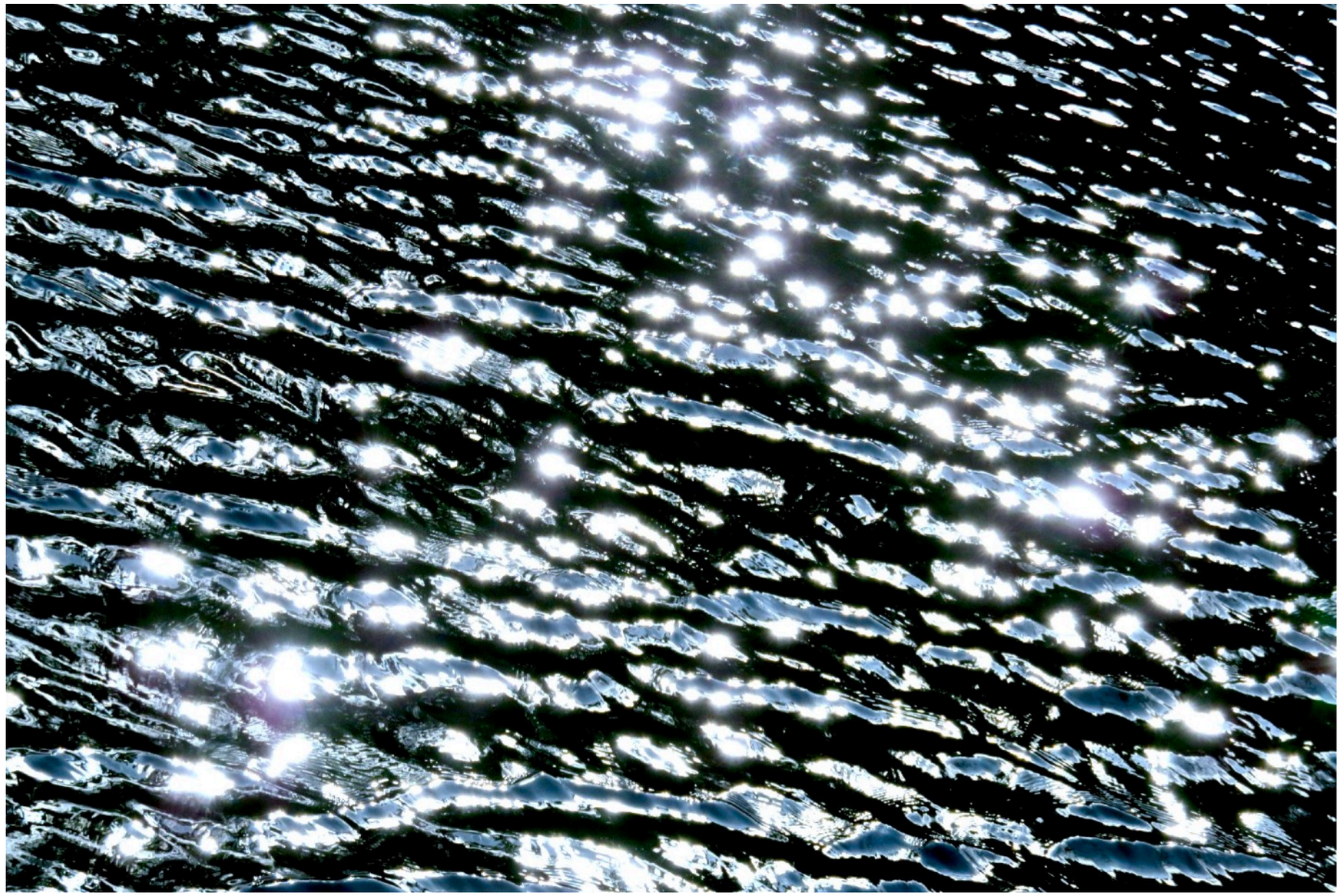
良き土地であるにもかかわらず
蒔かれて悪しき実を結ぶこともある

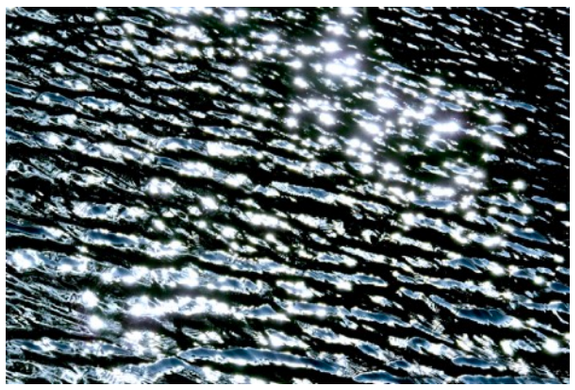
耳ある者は
注意深く真実を聞き分けなさい

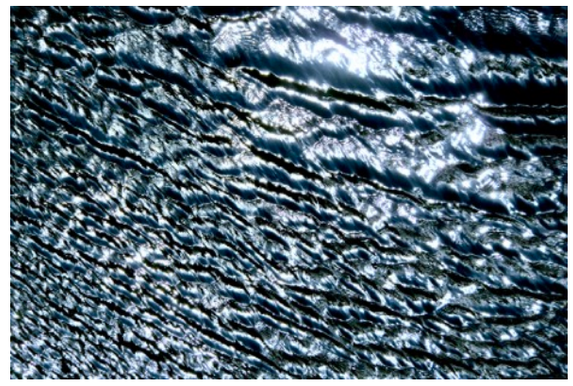
良き種をむすぶために
悪しき種を拒むために

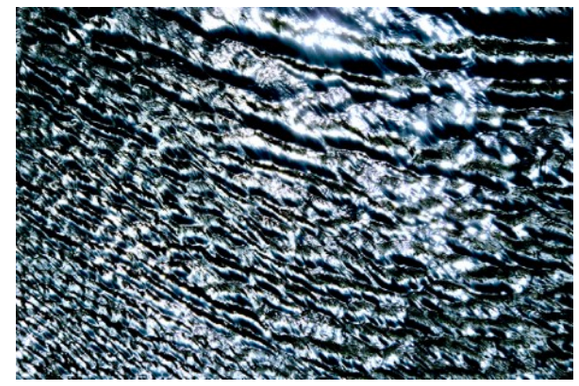
そしてでき得るならば
悪しき種を蒔く人を許し
悪しき種を良き種に変え
ともに良き種を良き土地に蒔きなさい

（「種を蒔く人」のたとえ／
マタイ福音書より）









＊愛媛県久万高原町・笛ヶ滝公園にて

☆photopos-3422　2024.1.21

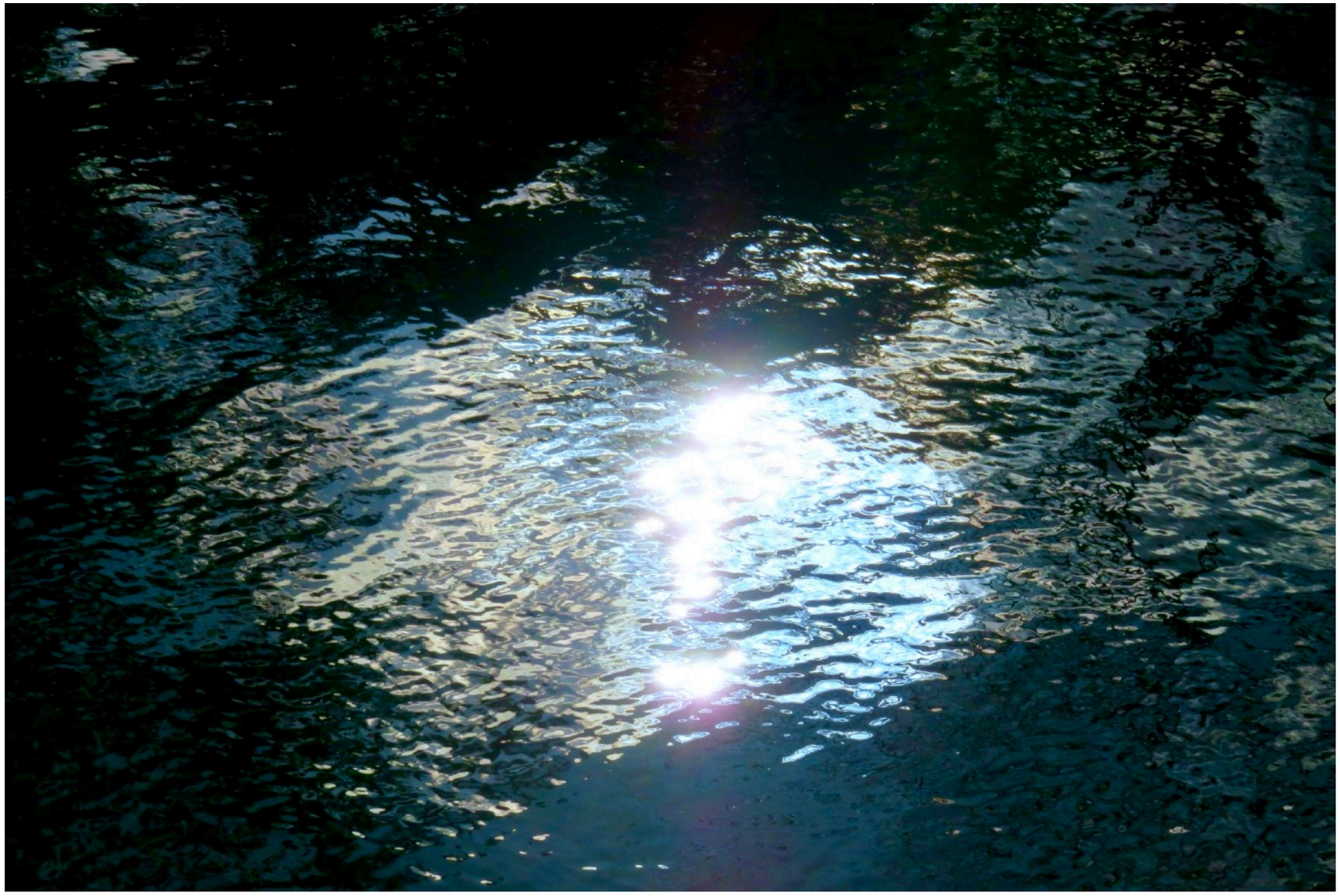
ことばは
果実のような
ほんとうの
食べもの
ほんとうの
歌になるから

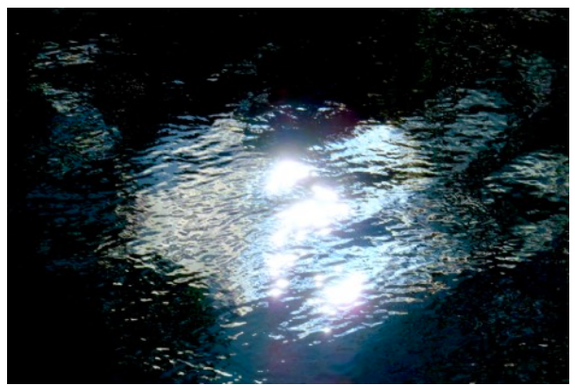
ことばを
食べると
ことばは
からだをつくり
こころをつくるけれど

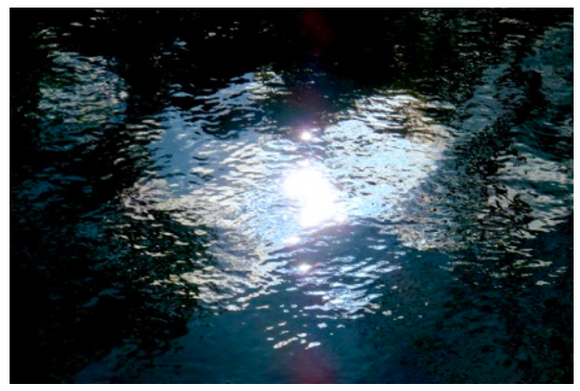
毒のことばは
からだもこころも
病気にしてしまう

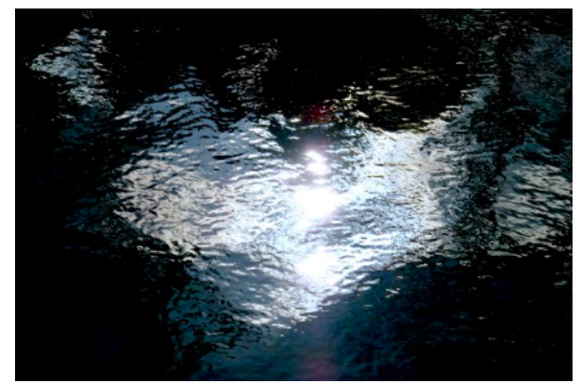
ことばが
機械から
うまれる時代には
ことばは
食べることのできないまま
からだもこころも
飢えてしまうから

ほんとうの
食べもの
ほんとうの
歌をさがして
ことばの旅へ









＊愛媛県久万高原町・笛ヶ滝公園にて

☆photopos-3423　2024.1.22

常に
新たな
じぶんで
あるために

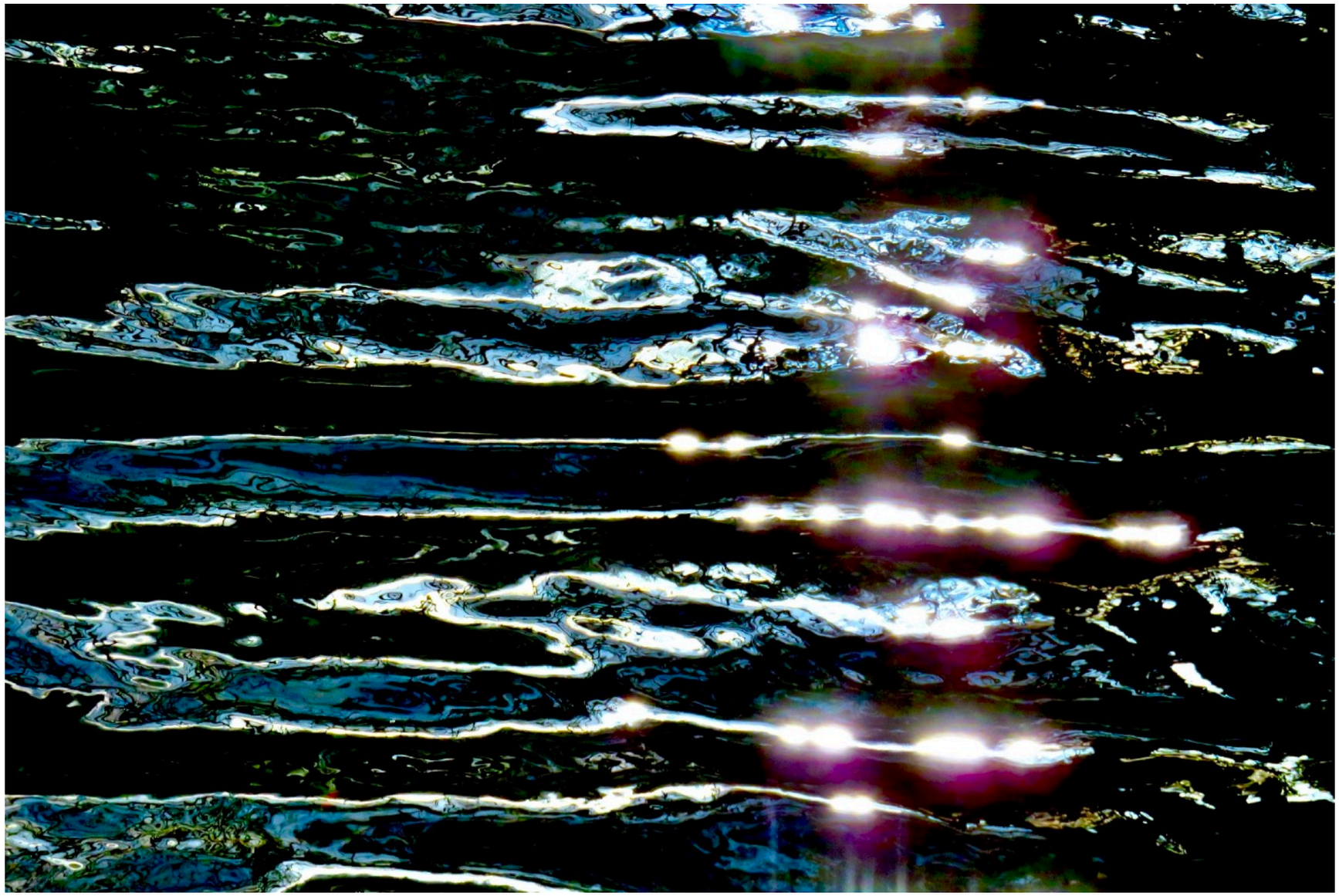
知らないところへ旅するか
それとも
知らないじぶんへ旅するか

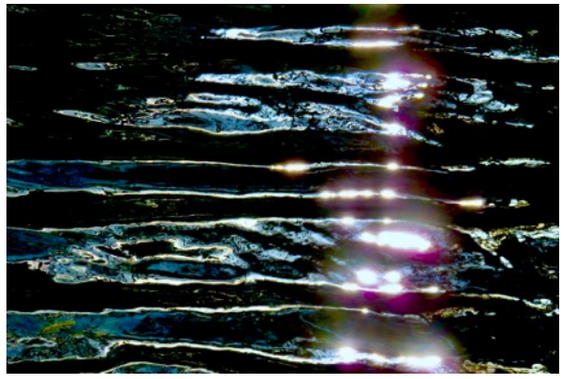
ときに
じぶんを閉じ込めている
日常から逃れて
ときに
じぶんという殻そのものの
奥底にあるものをのぞき込んで

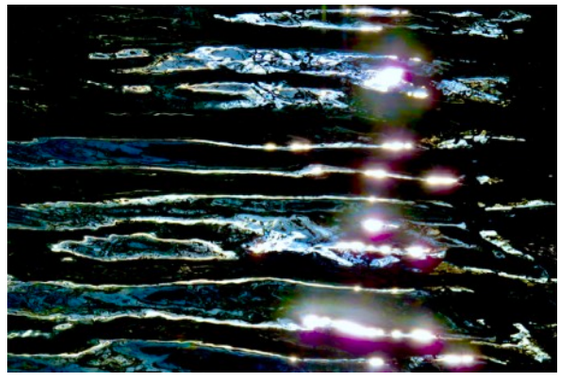
変わりつづけるもののなかで
変わらないものを見つけようとするか
それとも
変わらないと思っているもののなかで
変わりつづけるものを見つけようとするか

常に
問いを
くりかえす
じぶんになり

常に
迷路を
旅しつづける
じぶんになる







＊愛媛県久万高原町・笛ヶ滝公園にて

☆photopos-3424　2024.1.23

わたしたち
ひとりひとりは
じぶんがそれであることを
忘れてしまっている星である

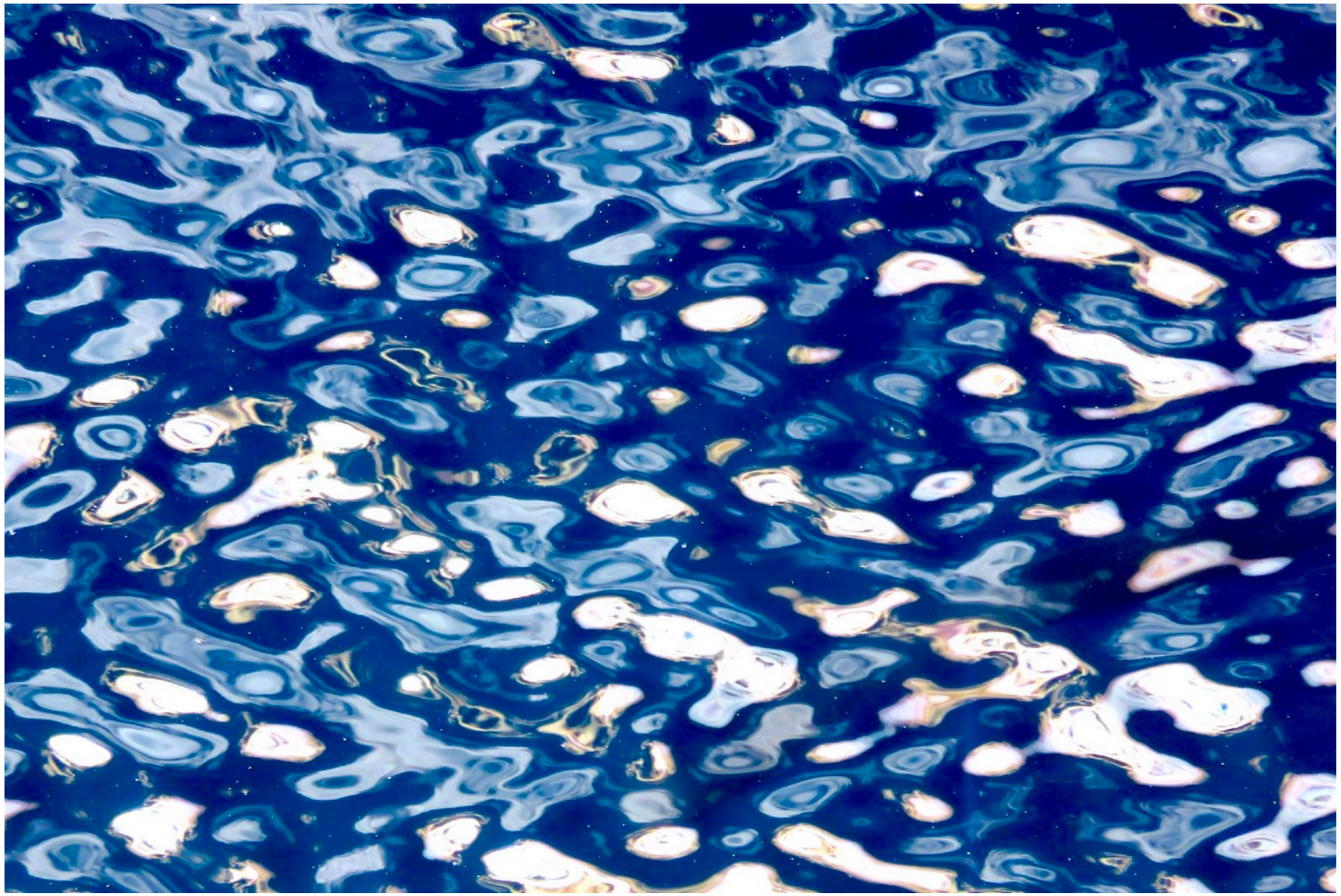
その星は
石ころではない
いや
雑草という草はないように
石ころという石はない

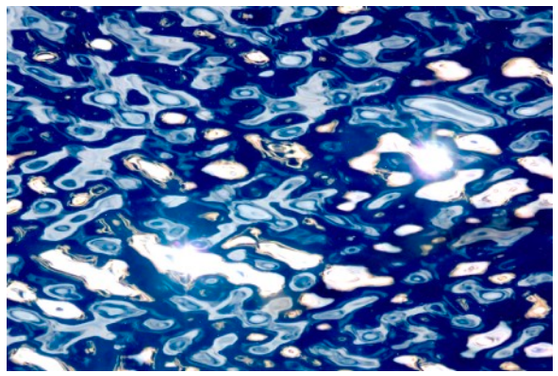
星は生きている
地球がこうして
生きているように

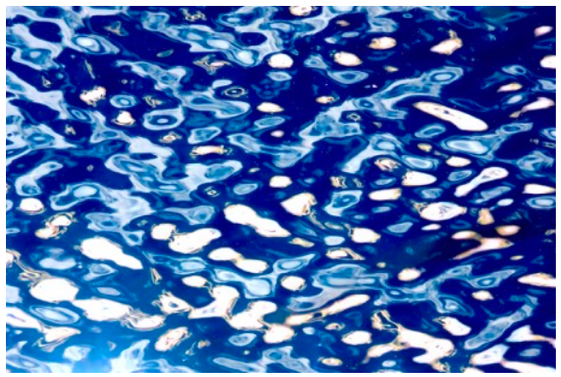
わたしたち
ひとりひとりは
じぶんがそれであることを
忘れてしまっている魂である

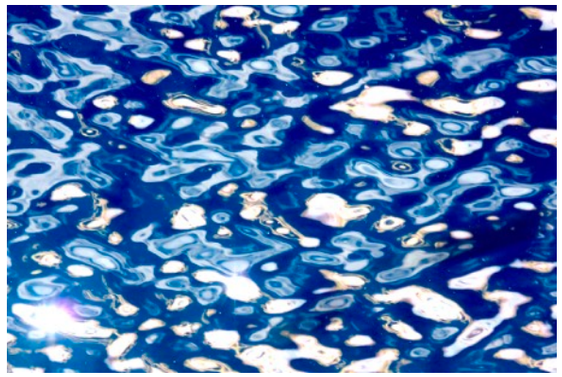
その魂は
死ぬと失われる
生命ではない

ちいさなひとりひとりが
握一点開無限としての
宇宙であるように
魂のいのちは永遠である









＊愛媛県総合運動公園にて

☆photopos-3425　2024.1.24

どこから
どこまでが
ぼくなのか

からだは
ぼくのはずだが
からだのなかでは
ぼくではない
いろんなものが
ぼくになっている

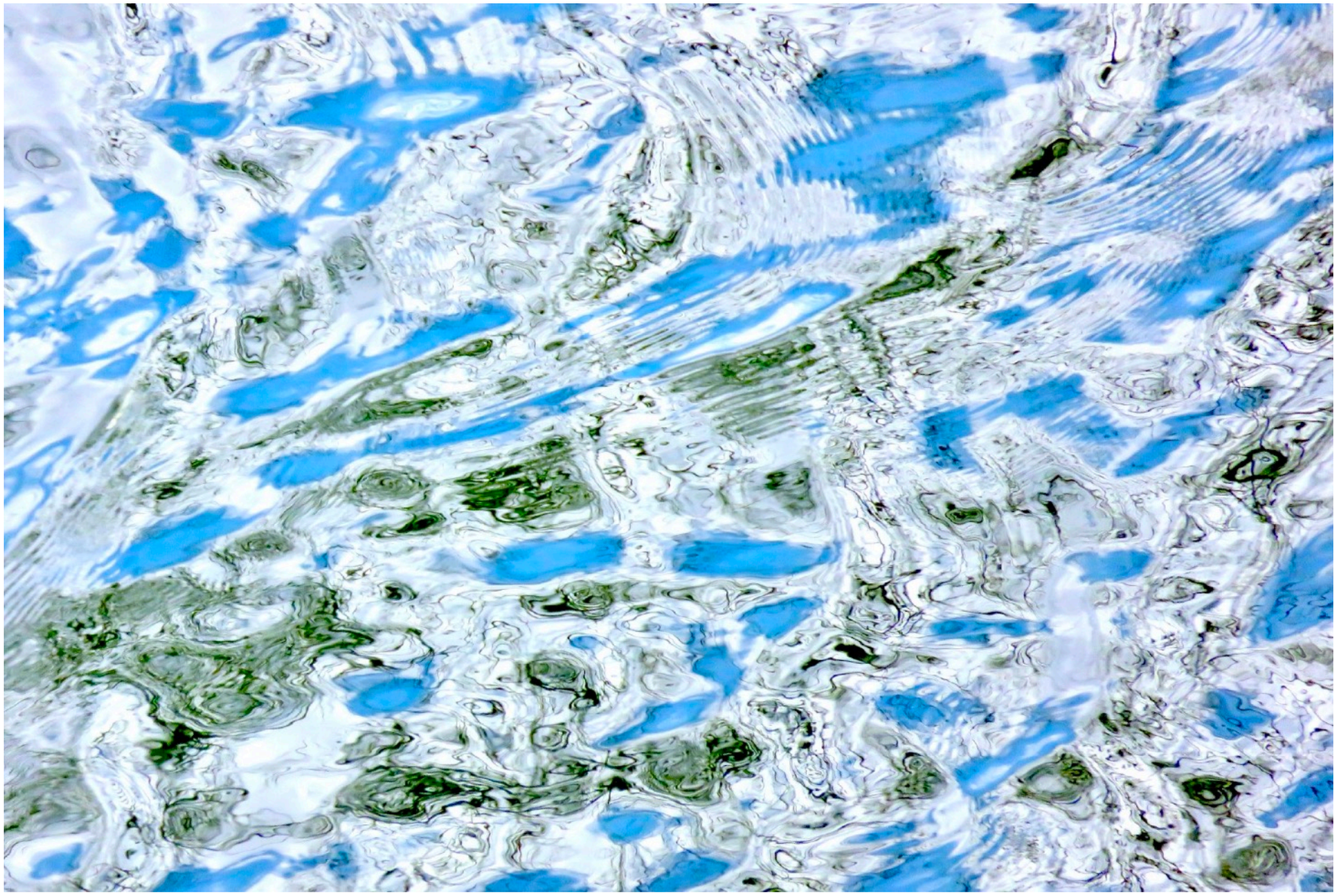
からだのほとんどは
さいきんで
できてさえいるそうだ
さいきんも
ぼくだろうか

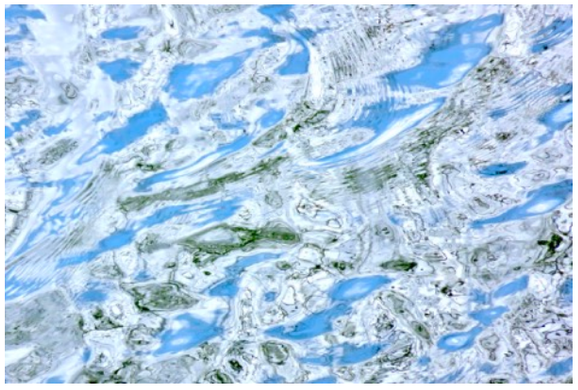
すいこんだくうきはぼくか
こーひーのかおりはぼくか
ごくごくのんだぎゅうにゅうはぼくか
さっきたべたごはんはぼくか

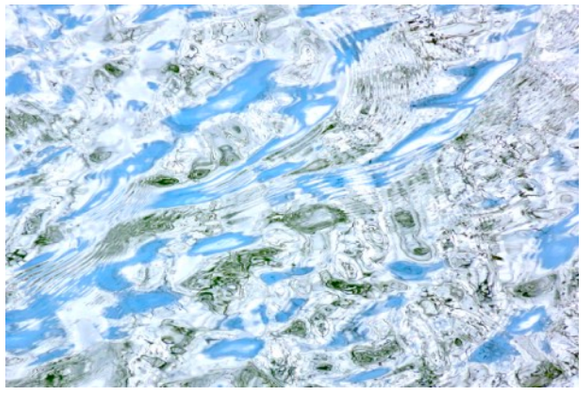
きているふくはぼくか
はいているくつはぼくか
かけているめがねはぼくか
はにつめてあるせらみっくはぼくか

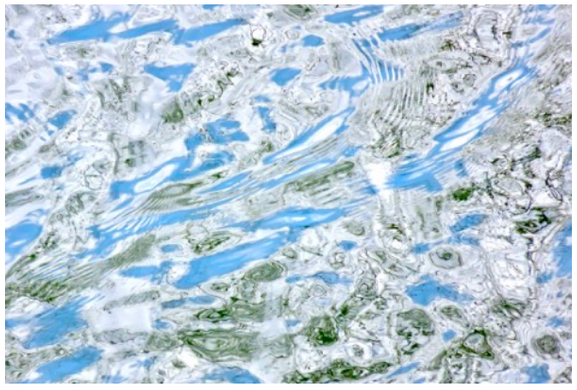
おかあさんの
おなかにいたのはぼくか
おかあさんから
でてきたのはぼくか
かわっていくからだはぼくか
やがてしんでいくのはぼくか

ぼくはきみとてをつなぐ
きみのては
ぼくのではないけれど
つながれたては
ぼくをこえて
ぼくときみのてになっている









＊愛媛県総合運動公園にて